

図書館と県民のつどい埼玉 2011



文字・活字文化の日（10月27日）制定を記念し、図書館サービスの向上と読書活動の推進を図るため、県民とともに図書館のあり方を考える「つどい」を開催します。「子ども読書活動交流集会」も、この事業の一環として同時開催します。

日時 平成23年11月5日(土)
10:00~16:00

会場 さいたま文学館
(JR高崎線桶川駅徒歩5分)

申込締切 10月17日(月)

申込方法 往復はがき、インターネット
のいずれか

※詳細は、チラシや埼玉県立図書館のホームページ等でご案内します。

◆問い合わせ

県立浦和図書館「図書館のつどい」係
〒330-0063

さいたま市浦和区高砂3-1-22

電話: 048-829-2821

FAX: 048-829-2979

★★★講演会・分科会のご案内★★★

- 午前 (10:00~11:45) 記念講演
あさのあつこ先生と中高生のトークセッション
「いま、若者に伝えたいこと」
- 午後 (13:30~15:30) 子ども読書活動交流集会
- 分科会1 シンポジウム「応援しよう!子どもの読書」(パート2)
- 分科会2 ふしぎ発見!科学の本と科学あそびを楽しもう
- 分科会3 わらべうたであそびましょう
わらべうたで子育てのお手伝い
- 分科会4 読み聞かせ講座 いま、えほんのちから
被災地のこどもたちを支えたもの

全日 大学・高校・公共図書館部会(展示)

◆大学図書館 大学図書館のお宝、お見せします

◆高校図書館 Welcome! 高校図書館2011

◆公共図書館 東日本大震災の衝撃-図書館は希望の灯をともせるか
本の修理・相談コーナー

子ども読書支援情報誌

しえん

Shien 第12号

子どもの読書に関わる大勢の方の活動とネットワークを支援(Shien)する
そんな大きな願いをもったささやかな情報誌です。

平成23年9月1日 発行

埼玉県立久喜図書館 子ども読書支援センター

【目次】

- いま思う…「生きる力」を手渡そう・・・1
- 連載：おはなし・読み聞かせ実践講座⑫・・・1
- 連載：子ども読書支援関係ボランティア団体等紹介⑩・2
- 新聞・雑誌クリッピング担当から・・・2
- ブックリスト担当から・・・3
- インターネットからの情報収集担当から・・・3
- 図書館と県民のつどい埼玉2011・・・4
- 読み聞かせボランティア団体のための講師派遣・・・4

いま思う…「生きる力」を手渡そう

「小学2年生くらいの女の子が幼児3人に読み聞かせ」をしている1枚の写真。東日本大震災直後の3月18日に岩手県大槌町の体育館で撮影され、朝日新聞に掲載された写真です。子どもたちにとって、地震・津波・体育館での生活と非日常の心おびえる体験が一度に押し寄せました。そういう状況の中で、本を読んでくれる少し年上のお姉さんの周りに小さな子どもたちが集まって、真剣に聞いている様子を見て、思わず涙が出てきました。そして、本が、読み聞かせが、子どもたちの心に癒やしと潤いをもたらし、今日から明日につながる小さなエネルギーを生み出していると感じました。本や読み聞かせは、まさしく「生きる力」、精神的な支柱になっているのです。



『おとうさんのちず』(ユリ・シュルビッツ作 あすなる書房)では、避難生活の中、今日食べるパンを我慢させて、息子に1枚の世界地図を買い与えます。お父さんが未来を考え手渡したその地図が、息子の想像力や生きる希望を培っていきました。成人して作家になったシュルビッツの実話です。お父さんの地図のように、私たちが子どもたちに手渡せるもの、それが本であり、読み聞かせです。被災地で本や読み聞かせが精神的な支柱になっているこの写真は、逆に私を励ましてくれます。みなさん、これからも、子どもたちと本をつなぐ活動や被災した子どもたちに本を届ける運動をさらに大切にしていきたいと思います!

福田孝子(三郷市読書活動支援員)

おはなし・読み聞かせ実践講座 ⑫

今回も浦和子どもの本連絡会の方による、おはなし会を行う上でのワンポイントアドバイスをお届けします。引き続き、わらべうたを使った手あそびをご紹介します。

わらべうたのリズムや言葉を子どもはとても楽しんでくれます。しかし、遊びで盛り上がりすぎてしまい、おはなし会の雰囲気壊れてしまうこともあります。子どもの様子を見ながら遊んでみてください。



♪ とんぼとんぼ



- ①とんぼとんぼ ゆっくり人指し指をまわす
- ②まわせまわせ 速くまわす
- ③めをまわ 両手指先を肩幅に離す
- ④せ 合わせる
- ※ お友達と指を合わせても楽しいですよ!

♪ どんぐりころちゃん



- ①どんぐり1つを両手を合わせた中に入れ、うたに合わせて上下に振る
- ②はちくりしょ とうたい終わったら、左右に握りこぶしを作って、「さあ、どっちの手に入っているか」と子どもに聞いてあてっこして遊ぶ
- 鷺見優子(浦和子どもの本連絡会)



読み聞かせ・ストーリーテリング

初心者向け研修会に講師を派遣します

(読み聞かせボランティア団体のための講師派遣)

絵本の読み聞かせやストーリーテリングの初心者向け研修会に、埼玉県立久喜図書館で養成したおはなしボランティア指導者を派遣します。研修会の開催方法は県立久喜図書館がサポートいたしますので、お問い合わせください。研修会開催の1か月前までにお申し込みください。

申込み方法・ご案内: 県立久喜図書館子ども読書推進担当 TEL: 0480(21)2659

https://www.lib.pref.saitama.jp/stplib_doc/ko_shien/shien1.html

編集後記

よいものを手渡したい、その思いで目の前の子どもたちに接する日々。この地道な繰り返しのひとつひとつが、めぐりめぐって被災地の子ども達にも届きますように。未曾有の被災の年に(職員K)



編集発行 埼玉県立久喜図書館
子ども読書支援センター
協力 子ども読書支援ボランティア

埼玉県立図書館のホームページ 「子ども読書支援サービス」
<https://www.lib.pref.saitama.jp/>

〒346-8506 埼玉県久喜市下早見85-5
TEL 0480(21)2659 (代) 彩の国 埼玉県
FAX 0480(21)2791

子育て応援団「いちご畑」

子ども読書支援関係ボランティア団体等紹介⑫

自分の子だけでなく、まわりの子の成長も一緒によろこびあえる仲間を作りながらみんなで子育てしていけたらいいなあ～という「想い♪」から平成16年4月より久喜市内で活動を始めました。

今年度は、約120組の親子が「赤ちゃんサロンいちごみるく（ジャム組、シロップ組）」とママたちが自主運営している「子育てサークル」のいずれかに所属して、毎週のようにあちこちで集まって遊んでいます。

ママ友、子ども同士の出会いはもちろんですが、子どもにとって自分の親以外に信頼できる大人がまわりにいてくれることはとても心強いことです。

また「赤ちゃんサロンいちごみるく」では、生後5～6カ月から1才半の子どもが多いため、親子が絵本に初めて出会う場としても大切に考えています。

そこで毎回ボランティアスタッフによるわらべうた、絵本、手袋人形、パネルシアター、紙芝居などをとりいれています。赤ちゃんたちが初めて絵本やわらべうたを楽しむ様子を見たママたちの感動はとても大きいようです。サロンで紹介したわらべうたや絵本などは子育てのなかにとりいれてもらえればと、卒業時にプリントして配布しています。

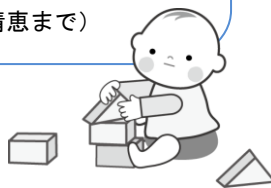


(いちご畑スタッフ 庄司美智子)

赤ちゃんサロンや子育てサークルを見学したい方、赤ちゃん大好きなスタッフ希望の方連絡お待ちしております。

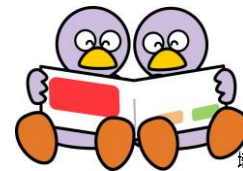
(090-2432-1365)

代表・金井清恵まで



Nice to meet you!
子ども読書支援ボランティアです。

埼玉県立図書館のホームページ
<https://www.lib.pref.saitama.jp/>
「子ども読書支援サービス」のページ



埼玉県のマスコットコバトン

きりめき羅針盤

新聞・雑誌クリッピング担当から

3月11日を境に、新聞各社は東日本大震災を伝える内容に大きく変わりました。広がる被害の様子を伝える紙面に心が痛みました。そんななかでも震災後すぐに被災地において様々な支援活動が行われました。今回は支援活動のなかでも子どもの読書支援にかかわる記事を一部紹介したいと思います。

<2011.3.18 毎日新聞(夕刊 3頁)> 南三陸 避難所に図書室 本をよむとほっとするね

震災から一週間、避難所の小学校で子供たちに少しでも心を癒してほしいと教師たちがアイデアを出した。

<2011.3.28 日経新聞(夕刊 14頁)> 子供たちに絵本を 編集者ら 届けて読み聞かせ

「3・11絵本プロジェクトいわて」全国から絵本を集める活動が盛岡市で始まる。代表者絵本編集者の末盛千枝子さん。「絵本が子供の心を癒した実例がある。被災地に絵本を送ってほしい」と呼びかけている。

<2011.4.5 埼玉新聞(朝刊 19頁)> 子どもに笑顔贈りたい 集めた絵本など1300冊被災地に

熊谷の子育て情報誌が呼び掛け

<2011.4.30 毎日新聞(朝刊 10頁)> 本 読める生活取り戻したい 少ない「子供向け」

大震災後の先行きの見通せない今だからこそ子供たちに「本の力」を伝えたい。児童文学作家の中川季枝子さんは、読書には自分一人で「想像できる自由」がある。絵本作家の内田麟太郎さんは、本で身につけたものは地震や津波にも奪われない「頭の中に残る財産」になる。



記事には楽しそうに本を読んでいる子どもの写真が掲載されていることが多いです。一瞬でも笑顔を取り戻し、少しずつでも元気が戻ってくることを祈りたいです。本には大きな力があることを多くの方が信じています。

※新聞記事は埼玉県立久喜図書館子ども室で閲覧できます。ホームページも更新中(平成18年1月～平成23年3月)

井上(子ども読書支援ボランティア)

使えるブックリスト

ブックリスト担当から

この春から、「本の苦手な子どもにおすすめします その3」に取り掛かったところです。低学年の子どもたちにおすすめしたいよみもののリストを作っています。文字が大きく読みやすく、どのページも文字の量が多すぎない本。次々と読めるシリーズものもリストに入れてあります。

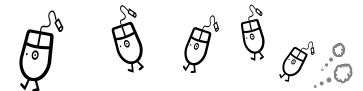


『その1』の時にイメージしていた「本の苦手な子ども」は、小学校3・4年生の、字がならんでいる本を読むのはめんどろだなどという子どもでした。『その2』は、そんな子がおもしろい本に出会わずに高学年になってしまったという設定。そして今回は「本の苦手な子どもにおすすめします その3 低学年」というのが仮題なのですが、なかなかイメージできません。というのも、低学年の子どもたちは本を読んでもらうのは大好きですし、絵本なら抵抗なく手に取り自分で読んでいます。「本が苦手」というよりは「文字を読むのが苦手」なために、自分で読んでいると筋がわからなくなってしまうのかもしれない。短いよみものに悪戦苦闘している子どもでも、まわりの大人が読んであげれば長い物語も楽しめるのではないかと思います。



自分でページをめくっても、「あーおもしろかった!」と心から満足してもらえるような本を紹介したいと思っています。みなさん、おもしろい本があったら教えてください。 杉原(子ども読書支援ボランティア)

知っ得情報!



インターネット情報からの情報収集担当から

*** おすすめHP(ホームページ)の紹介 ***

mite [ミーテ] <http://mi-te.jp/contents/cafe/top/10/>

KUMON が運営する絵本の読み聞かせを通して子育てを応援する Web コミュニティサイトです。読み方のコツや読み聞かせの効果、絵本の紹介などがあります。

ポプラ社 読み聞かせ絵本ガイド <http://www.poplar.co.jp/jidou/guide/index.html>

これから自分の子どもに「よみきかせ」をしたいと思っている人やびったりあった絵本が見つからなくて困っている人のためにその方法と実践について紹介。絵本を年齢別に分類しています。



「ブックスタート」という言葉も定着してきたためか、乳幼児のお父さんやお母さんに向けた読み聞かせのページも増えてきました。YouTubeに自分の読み聞かせの様子を公開している方も多数いらっしゃいます。

これから読み聞かせを始めたい方には、参考になるのではないのでしょうか?

坂本(子ども読書支援ボランティア)